

7月13日（金）小学校の参観日に子育て講演会がありました。上田市マルチメディア情報センターの斎藤史郎先生による『子どもとケータイ・ネット』という情報モラルについての講演会でした。今月号はその様子をお伝えします。



ボーッと生きてはいられない

ない

保護者 佐藤 恵利子

現代のほとんどの人がケータイやスマホを必需品としているので、機種の変更や連絡網の必要性からLINE（ライン）という新しいネットワークに入る人も多いと思います。

わたしは機械に弱いのでLINEのやり方を最初の設定から友人にお願いしました。繋がってもらい何も心配することなくとても便利に使っていました。そんな中、自分自身がはっとする出来事が起こりました。

ある日いつもと同じようにLINEの中に「新しい友だちとトークしよう！」というメッセージが来ました。送り主が元同僚と同じ名前だったので、久しぶりに昔を思い出して返信すると、「今どこに住んでいるの？」というごく普通の返事が来ました。彼女とは数年前に偶然再会しており、私の近況も住所も知っているはずなのに……。では今私がメールで繋がっている人は誰なの？と思った瞬間ぞっとしました。恐怖心に襲われながらも慎重にデータを削除しました。子どもたちが今後ケータイを使用するようになった時、なりすましに気が付かず交信を続け、怖い



い思いをしたらどうしよう！と本当に心配になりました。かつてネットに関する講演会にも参加し、問題意識が強い方だと自負していた自分が恥ずかしくなりました。



この体験を通して改めて、現代の問題にもう一度注視して頂きたく、斎藤先生の『子どもとケータイ・ネット』という講演会の内容を紙面上一部ですがお伝え致します。

《ネット・ケータイの問題と子どもの心》

【子どもたちのコミュニケーションの時代変化】

今の子どもたちは、物心付いた時からネットやケータイがある「デジタルネイティブ」(デジタル世界の原住民)。ネットやケータイは「あるのが当たり前」「つながるのが当たり前」。リアル(現実)とネットのコミュニケーションを区別しない。会って話すと、メールやLINEのやり取りは全く同じ感覚。すぐに返事が来ないと「無視された」「おかしい」と感じる。昔とはコミュニケーションの感覚が違う。大人の物差しを押しつけて考えてはいけない。

【ネット依存の種類】

目に見えるネット・ケータイの問題ばかりではなく、目に見えない子どもの心の面を同時に考える必要がある。ネット依存には大きく2種類ある。

- ① つながり依存 いつもスマホを手放さずにLINEやメールをしてしまう。
- ② ゲーム・コンテンツ依存 ゲーム・動画などを長時間プレイし続けてしまう。

【友人関係の維持の難しさ】

集団の中で「自分の役割」を演じないと認められない。そこから逃れられない。「空気を読めない」(KY) 奴はそこに認められない。

日頃押さえつけられた・傷つけられた不満やストレスが、少しでも「変」「おかしい」子にぶつけられ、いじめに。以前からあった問題だが、ネットやケータイが普及したことで、目に見える形で表面化。今はケータイが「人間関係維持ツール」になっている。

《私たち大人の対応》

【まずは大人が学ぶ】

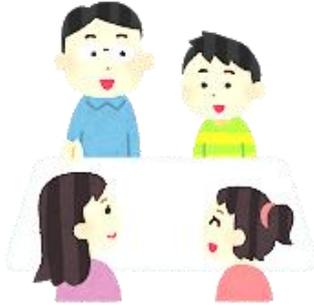
日本の情報教育の問題は、大人の情報リテラシーが低いこと。子どもにちゃんと教えられないので、禁止か放任になってしまうのが現状。

ネットやケータイの危険性や対策など基本的な知識を身につける。本や教材はたくさんある。必要なら講座も。わからなかったら子どもに聞けばよい。自分でやった上で「なるほど、わかった。でもこういう部分は危ないから気をつけて」と言えば説得力がある。大人には、子どもには無い「人生経験」がある。「こういうことを言う人は危ない」など、人生経験から判断できることも多い。

【具体的な対策】



「取り上げる」「禁止」と言うと、子どもは禁止されるのが嫌なので、トラブルがあっても親に言わなくなってしまう。



子どもが相談できるような親になろう。「愛してる」「あなたが大切だ」と、愛情をちゃんと口に出して伝える。「言わなくてもわかるだろう」はダメ。言わなかったら伝わらない。逆に「勉強しろ」「～しちゃダメ」と否定的なことばかり言っていると、子どもは傷つき、孤独感を深め、自己評価が低くなってしまふ。

子どもにとって、家庭を「つながりを感じられる場所」「居場所」に。子どもたちは、今後必ずネットやケータイを使って生きていく。(既にゲーム機などは多くの子どもが持っている。)
「禁止」「新しいものはわからない」では済まされない。「いつかは必ず使うもの」として、ネットやケータイを「安全にどう使うか?」「子どもたちにどう教えるか?」が重要。

★LINE とは主にスマホで使われている無料通話アプリ

「友だち」として登録した人と、無料通話・メッセージのやり取りができる。携帯メールの代替として広く普及した。(国内で5千万人以上、全世界で5億人以上のユーザー) 占い・ニュース・ゲームなどのサービスも。

★LINE の個人情報問題

標準設定だと、会員登録時に自分のアドレス帳の電話番号データを自動的に運営会社へ送り、その中でLINE を使っている人を「友だち」として自動登録する。アドレス帳の他人の個人情報を勝手に送ってしまう。

他の人が登録したアドレス帳に、自分の情報があると、その人の「友だち」に自動登録される。あまり仲良くない人、話したくない人にも自分を友だち登録されてしまう。

★LINE の個人情報問題への対策

会員登録の時に、以下の設定をOFFにする。

アドレス帳からの友だち自動追加・他の携帯への友だち自動追加 IDの検索を許可。

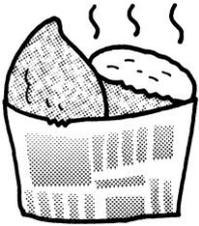
LINE をやりたい友だちとは、実際に話して許可を得た上で、手動で友だちに登録する。現在は未成年の携帯ユーザーは ID 検索が不可に。(ただし裏技あり)

接続方法により、フィルタリングが無効になることに注意。携帯電話会社のフィルタリングがかかるのは、ブラウザで、携帯回路経由でアクセスした時のみ。動画再生・SNS 閲覧など無線 LAN を使いアクセスポイント(家庭・店舗)でインターネットをみるとフィルタリングはかからず無効になる。



はつらつ先生 IN あおき

今回は、青木村保育園 うめ組 三澤 志織 先生です。



•好きな食べ物…焼き芋です。焼き上がりで甘さが見分けられます。母が作ってくれるコロッケ。母方の祖母が作ってくれる生姜がたっぷり効いているから揚げも好きです。

- 苦手な食べ物…ししゃもの卵が苦手です。
保育園の給食のししゃも

は食べられます。

- 趣味…ムーミンが大好きで、友だちと埼玉にあるムーミンの公園に行って楽しかった思い出があります。雑貨屋さん巡りもしました。少女漫画をネットで読むのも好きです。
- どんな子どもでしたか？…木登りが大好きでした。お弁当を持ってピクニックに行ったこともあります。甘えん坊で2歳下の弟がお母さんに抱っこしてもらっているところをどかして、自分がひざの上に座っていました。仲のいい友だちとはよくおちゃらけていました。弟とは小学校の頃はよくけんかをしていましたが、中学生になってからは仲よしになり、今でも仲がよいです。



- 先生にならなかつたら？…保育園年少の頃はお花屋さんになりたかったです。年長担任のりょうこ先生が大好きで保育園の先生に憧れました。発表会の時にピーターパンをやった事が楽しくて、お泊り保育もいまだに覚えています。



- 好きな有名人は？…今はAAA（トリプルエー）。小学生の頃、スピードが好きだったけど解散してしまったので、その後モーニング娘が好きになりました。

- お休みの日は何をしていますか？…家事です。ごろごろしてマンガを読んでいます。主人が釣ってきてさばいてくれたイカを食べます。



編集後記 青木村の子どもたちは村内で沢山の人たちに守られています。高校生になれば一人での判断も迫られます。その力をつけさせて安心して送り出したいですね。

今年も子育てフォーラムが12月1日（土）午前中に開催されます。今年は講師に長岡秀貴先生（侍学園スクオーラ・今人）をお迎えして「幸せに生きるために必要なこと」～子育ての時間は限られている～という演題で講演をして頂きます。

大勢の方の参加をお待ちしています。